

1 研究主題

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成

～楽しい授業・わかる授業を通して～

2 研究の経過と概要

(1) 研究主題の設定理由

急激に変化する社会において、今後ますます国際化が進展し、国際的な相互依存が深まることが予想される。様々な情報媒体の発達により、世界中の情報を瞬時に得ることができる今、英語は国際的共通語としての役割も大きく、英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020年の東京オリンピックを見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が出され、今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも、将来にわたり、英語学習に意欲的にとりくむ児童・生徒の育成が急務であると考えます。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校も、英語教育への関心は高い。一方、小学校では外国語活動に難しさや恥ずかしさによる抵抗感を持っている児童が、中学校では語彙力や文法知識が定着しておらず、なかなか自信を持ってコミュニケーション活動にとりくめない生徒が少なからずいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語（英語）活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには、学習の原動力や推進力となり、最後までやり遂げようとする学習意欲を高めることが最も重要であると考えます。

そこで、外国語（英語）活動において、小学校と中学校の連携を軸に、児童・生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者がより意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。

(2) 研究目的および研究仮説

①研究目的

- ・英語学習における基礎学力を児童・生徒に身に付けさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

②研究仮説

- ・工夫した学習活動を取り入れ、「楽しい」「わかる」と思う授業を創造することによって、児童生徒の学習意欲が高まるだろう。

③仮説の検証方法

- ・研究主題にせまるための文献研究、講師を招聘しての学習会をおこなう。
- ・指導案検討や研究授業を通して仮説の検証をする。

(3) 研究内容

- ・先行研究から学ぶ。
- ・研究テーマにせまるための指導案を作成し、授業を実践する。
- ・小中連携を意識した活動の展開を検討する。
- ・小学校英語科について学ぶ。

(4) 研究の経過と今後の予定

月 日	内 容	司会・記録
2016年5月6日	組織決定・今年度の研究の方向性について	山北中
5月18日	研究の方向性・統一授業研について・小中分科会	山南中
6月 1日	校種別事例研究①・夏季学習会の内容の決定 文献研究	勝沼中・山南中
8月 1日	小中連携についての学習会（講師：甲斐市立敷島中 学校 立川武先生）・統一授業研指導案検討	松里中・岩手小
8月31日	統一授業研究（授業者：勝沼中学校 天野）	山北中
9月28日	校種別事例研究②	勝沼中・井尻小
11月30日	校種別事例研究③	山南中
2017年1月11日	統一授業研指導案検討・事例研究実践報告	塩山中
2月 8日	統一授業研究（授業者：日下部小学校 藤木）	松里中・岩手小
2月15日	研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について	勝沼中・塩山北小

(5) 研究組織および部員

- ・助言者 廣瀬 芳樹（山梨小学校）
- ・部 長 水上かおり（塩山中学校）
- ・副部長 加藤紀子（松里中学校） 依田久（山梨南中学校）
- ・部 員 佐藤佳奈（塩山中学校） 野沢喜満子（塩山中学校） 天野由梨（勝沼中学校）
高橋真由美（大和中学校） 古屋浩紀（山梨北中学校） 広瀬竜太（山梨北中学校）
利根川紫乃（山梨北中学校） 益田宗士（山梨北中学校） 長嶋明美（山梨南中学校）
大村隆（山梨南中学校） 小宮山公仁（塩山北小学校） 神宮司剛（井尻小学校）
中村弘和（井尻小学校） 高野育愛（塩山南小学校）
飯室林（岩手小学校） 藤木真里佳（日下部小学校）

第5学年 英語科学習指導案

指導者 藤木 真里佳
ALT テラ・ライト
JTE 庄子 光子

(1) 単元名 時間割をつくろう

“What do you study on ~?” (山梨市小学校英語科 第5学年 Lesson7)

(2) 単元について

本単元は、児童にもなじみのある『時間割』を題材に扱っている。そのため、題材により興味をもち、学習に取り組むことができる。そして、単元の最後には理想の時間割を作り、習得したキーセンテンスを使いながら、友達が作った時間割内容を探ねたり自分の時間割について話したりする活動につなげていく。

第1時は、ALT の母国の小学校でどのような学習をしているのかを知る学習から始まる。自分たちの学校生活と比較することで、異文化理解にもつながるものと考えられる。後半には、普段慣れ親しんでいる教科の英語表現を学ぶ場を設定している。2つのゲームを行い、各教科の英語表現をインプットする機会を多くする。また、第1時では本単元のゴールを示す。具体的には、グループを組んで理想の時間割について探ねたり、答えたりする活動である。担任、ALT、JTE の3人でグループを作り、それぞれの理想の時間割を提示しながら交流している場面を見せる。このときに好きな教科をもとに組み立てた時間割ではなく、将来なりたい自分の姿に近づくために必要な時間割を作成することを伝える。

第2時は、自分の好きな教科を伝える表現を学ぶ。まず、キーワードゲームで各教科の英語表現を復習する。次に“I like A and B.”の表現を用いて”and”に慣れさせていく。本単元では、”I study A, B and C.”と、各曜日に何の教科を勉強するのか伝えることがゴールになるため、”and”の用い方にも気をつけさせたい。そこで、グループ活動でカードめくりゲームを通して表現に慣れさせたい。このゲームは、各教科が書かれたカードを机の上にふせた状態から始める。まずは、2枚のカードをめくり”I like ~ and ~.”に当てはめていく。慣れてきたところで担任から指示を出し、めくるカードの数を3枚、4枚と増やしていく。カードめくりゲームを繰り返し行い、練習の機会とする。本時ではドリル学習が主になるが、第3時の活動に繋がることを児童に示し、意欲を持続させたい。

第3時には、第2時のキーセンテンスのさらなる習得を目指して、相手に好きな教科を探ねる”What subject do you like?”のセンテンスを導入する。インタビューゲームでは、実際にクラスの友達に好きな教科について探ねる場を設定する。同じ内容の日本語のやり取りは、日常生活でもよく耳にすることはあるので、英語でも伝えあえる満足感や、同じ教科が好きな仲間を見つける楽しさが、学ぶ意欲につながる。

第4時(本時)では、”What do you study on ~?” “I study A, B and C on ~.”のフレーズを学ぶ。探ねていることが前時と異なるため、担任とALT でデモンストレーションを行ってセンテンスの導入をし、新しい表現だということに気付かせたい。このときに、視覚でもわかる拡大時間割を使いながら、子どもたちも想像しやすいフレーズを用いることで、話の内容を大まかにつかむ手助けとする。ゆっくりはっきり発音したりすることにも気を配りたい。「全部ではないけれど、なんとなく言っていることが分かったよ」という気持ちにさせ、意欲の向上をねらう。児童は新しいフレーズを学ぶことになるため、チャンツやカードめくりゲームで表現を練習させていく。インプットを十分にさせた上で、最後には「仲間を探せゲーム」で繰り返しフレーズを使用する機会を設け、定着を目指していく。

単元の最後にあたる第5時には、理想の時間割として、自分の将来の夢や理想の姿に近づくための時間割を1週間分(1日3時間)作り、できあがった時間割を”What do you study on ~?” “I study A, B and C.”の表現を用いながら交流させる。本単元を通して習得したフレーズを使うことができる楽しさや達成感をもたせながら活動させたい。

本單元では、キーセンテンス以外の簡単な英語表現（『ちょい英語』）も積極的に用いさせたい。好きな教科の話になると、日本語だと「わたしも好き！」というやり取りが繰り返される。そこで、英語でも”Me, too!” / “I see.” / “Nice!!”などの簡単な表現を用いて気持ちを表すことができることを伝えていく。キーセンテンス以外にも英語を使えるようにさせることで、より興味を持たせるとともに、学習への意欲付けをはかりたい。

（3）児童の実態

男子18名、女子14名、計32名の学級である。控えめな児童が多いクラスだが、真面目で、みんなで決めたことややるべきことは、最後まで頑張ろうとする姿が見られる。最近では、各教科で班学習にとりくみ、お互いに学び合ったり意見を出し合ったりする中で人間関係を構築しているところである。

英語の授業においては、担任だけでなく、ALTやJTEの会話や英語にも熱心に耳を傾け、内容を理解しようとしている児童が多い。少し難しいと感じることで、「こういうこと？」と聞き返しながら理解していく児童もあり、諦めずに学ぼうとする意欲がある。発音練習になると、恥ずかしくなり大きな声が出ないことがあるが、励ましながら練習を繰り返したり、リズムに合わせて練習したりすることで定着を図っている。また、5年生の4月からアルファベットジングルを毎時間取り入れてきた。その成果として、アルファベットについては、ほとんどの児童が読むことができる。キーセンテンスを導入したあとの活動の時には、板書されているセンテンスを見ながら友達とやり取りしている児童もいて、文字を頼りにしていることがわかる。書くことについては、見本をもとにして書き写すことは全員ができる。見本がなくても、大文字・小文字ともに4線に気をつけて書くことができる児童も数名いる。

以下に示しているアンケート結果の通り、英語の学習に関しては、毎週楽しみにしている児童がほとんどで、意欲的な集団である。特に、毎回の授業の導入で行っている「How are you?タイム」（友達と簡単な挨拶を交わす時間）では、たくさんの友達と挨拶をしようとするために一生懸命活動する児童が多い。友達とやり取りすることに恥ずかしさを感じている児童がいる実態を踏まえ、円滑なコミュニケーションを早く図れるようにするために仕組んでいる活動だが、繰り返しのとりくみによって意欲付けされている。この「How are you?タイム」の時間を設けたことで、その後の発音練習も元気にできるようになってきている。

『英語の学習アンケート』から（10月実施）

① 英語の学習は楽しいですか。			
すごく楽しい 13	楽しい 16	あまり楽しくない 1	楽しくない 1
② 英語の学習に進んで参加していますか。			
進んで参加している 15	どちらかといえばしている 13	どちらかといえばしていない 3	進んで参加していない 0
③ 英語の学習で楽しいと感じるところはどんなところですか。（選択）			
<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生が教えてくれるところ（6） ・英語を聞いて言葉が分かったとき（16） ・英語を読むとき（9） ・英語を書くとき（11） ・英語で質問したり答えたりするとき（8） ・ALTやJTEの先生とはなすこと（2） 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に活動するところ（16） ・外国のことが分かったとき（9） ・英語を聞くとき（9） ・思ったことや考えたことを英語で話すとき（1） 	
④ 先生やALTが話している英語を聞きとることができましたか。			
よく聞きとれる	少し聞きとれる	あまり聞きとれない	全く聞きとれない

13	17	1	1
⑤英語の学習の時、進んで話そうとしていましたか。			
進んで話そうとしていた 12	少し話そうとしていた 16	あまり話そうとしなかった 3	全く話そうとしなかった 1
⑥英語の文字を読んでみたいと思いますか。			
とても思う 16	少し思う 14	あまり思わない 2	思わない 0
⑦英語の文字を書いてみたいと思いますか。			
とても思う 19	少し思う 12	あまり思わない 1	思わない 0

(4) 研究との関わり

今年度の外国語教育研究部会のテーマである「意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成～楽しい授業・わかる授業を通して～」を受けて、2つの点に力を入れた。

一つ目は、楽しい授業にするための工夫である。担任やALTが話している英語がわかったり、児童自身も英語を使ってコミュニケーションを取ることができるようになったりすると、授業を「楽しい」と感じる児童が多い。そこで、授業の始めに「How are you? タイム」を導入し、担任と児童との”How are you?”-”I’m ○○.”のやり取りを児童同士でもおこなう時間を設けた。楽しい雰囲気の中で、基本的な英語を使い英語に慣れさせるようにしたい。次に、音楽に高い興味を示す児童が多い実態を考慮し、リズムに合わせて口頭練習する工夫をした。テンポよい繰り返しの練習を通して、キーセンテンスをアウトプットさせていく。最後に、『ちよい英語』を取り入れる。本クラスの児童は、授業のキーセンテンス以外に、ちょっとした表現（Me, too! / I see. / Nice!!など）にたいへん興味を示す。そこで、教室に簡単な英語表現を『ちよい英語』として掲示し、英語の授業ではもちろんのこと、他の教科でも取り入れていくことにした。児童が興味を示している今、ゲームやアクティビティを通して、少しずつキーセンテンス以外の表現も活用できるようにさせていき、コミュニケーションをとる楽しさを感じさせたい。

二つ目に、わかる授業の工夫である。まず、単元のはじめに本時のゴールの姿を示し、どんな学習をするのかイメージをつかませる。ゴールの姿を具体的に示すことにより、単元を通して学ぶことや習得してほしいことが明らかになる。次に、HRTとALTでデモンストレーションを行っていく。センテンスの導入やゲームのルール説明では、デモンストレーションを通してどんな内容の会話が繰り広げられているのか想像させる。このときに難しいと感じさせないように、教具を掲示したり、ジェスチャーをつかったり、ゆっくり話したりすることを通して、理解や想像の助けとしていきたい。最後に、ふりかえりカードは、4技能について自己評価できる項目と、その日の感想やキーセンテンスをまとめられる項目にした。本単元を通して学んだことが一目でわかるようにし、ふり返りをする中で、わかるようになったことを実感させるとともに、学ぶ意欲を持続させたい。

(5) 単元の目標

○教科の名前の言い方や教科について伝え合う表現に慣れ親しみ、意欲的に活動に取り組む。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○教科について尋ねたり答えたりして伝え合うことができたり、教科の名前に使われる簡単な単語を書き写すことができる。

【表現の能力】

○教科について伝え合う表現を手がかりにして、話の大まかな内容を理解したり、教科の名前に使われる単語を読んだりすることができる。

【理解の能力】

○ALTの母国の小学校でどのようなことを学習しているのかを知り、日本の学習との相違を比べる。

(6) 指導計画

時	学習目標	評価				言語材料	
		コ	表	理	異		
1	Let's listen. ALT の母国の小学校生活について、日本の小学校で学習していることと比べながら聞こう。 『教科書ハンドアップゲーム』 『キーワードゲーム』				○	<ul style="list-style-type: none"> ALT の母国の小学校生活の様子や学んでいることについて聞き、生活の違いを知ることができる。(振り返りカード) 教科の名前を表す単語を聞き取ることができる。(行動観察) 	<ul style="list-style-type: none"> math, Japanese, English, social studies, science, home economics, music, arts and crafts, P.E., calligraphy
2	Let's say. 好きな教科を答えよう。 『キーワードゲーム』 『カードめくりゲーム』				○	<ul style="list-style-type: none"> 教科の名前を表す単語を聞き取ることができる。(行動観察) 教科の名前を表す単語を読むことができる。(行動観察) 	<ul style="list-style-type: none"> math, Japanese, English, social studies, science, home economics, music, arts and crafts, P.E., calligraphy I like~ and ~. ※Me, too! / I see. / Nice!! など
3	Let's ask and answer. ① 好きな教科を尋ねたり、答えたりしよう。教科を表す言葉を書き写そう。 『カードめくりゲーム』 『インタビューゲーム』		○			<ul style="list-style-type: none"> 好きな教科を尋ねたり答えたりすることができる。(行動観察・インタビューシート) 教科の名前を表す単語を書き写すことができる。(行動観察・単語カード) 	<ul style="list-style-type: none"> What subject do you like? I like~. math, Japanese, English, social studies, science, home economics, music, arts and crafts, P.E., calligraphy ※Me, too! / I see. / Nice!! など
4 本時	Let's ask and answer . ② 時間割をたずねたり、答えたりしよう。 『仲間を探せゲーム』		○			<ul style="list-style-type: none"> 何曜日にも何の学習をするのか、尋ねたり答えたりすることができる。(行動観察・時間割ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> What do you study on ~? I study A, B and C on ~. math, Japanese, English, social studies, science, home economics, music, arts and crafts, P.E., calligraphy ※Me, too! / I see. / Nice!! など
5	Let's tell. 理想の時間割を伝えたり、たずねたり	○				<ul style="list-style-type: none"> 作成した理想の時間割を発表したり、友達に尋ねたりしている。(行動観察) 	<ul style="list-style-type: none"> What do you study on ~? I study A, B and C on ~. math, Japanese, English, social studies, science,



しよう。						home economics, music, arts and crafts, P.E., calligraphy ※Me, too! / I see. / Nice!! など
------	--	--	--	--	--	--




(7) 本時の学習 (4 / 5時)

- ① 日 時 平成29年2月8日(水) 5校時 (14:00~14:45)
- ② 場 所 山梨市立日下部小学校 5年2組教室
- ③ 目 標 時間割を尋ねたり, 答えたりしよう。
- ④ 展 開

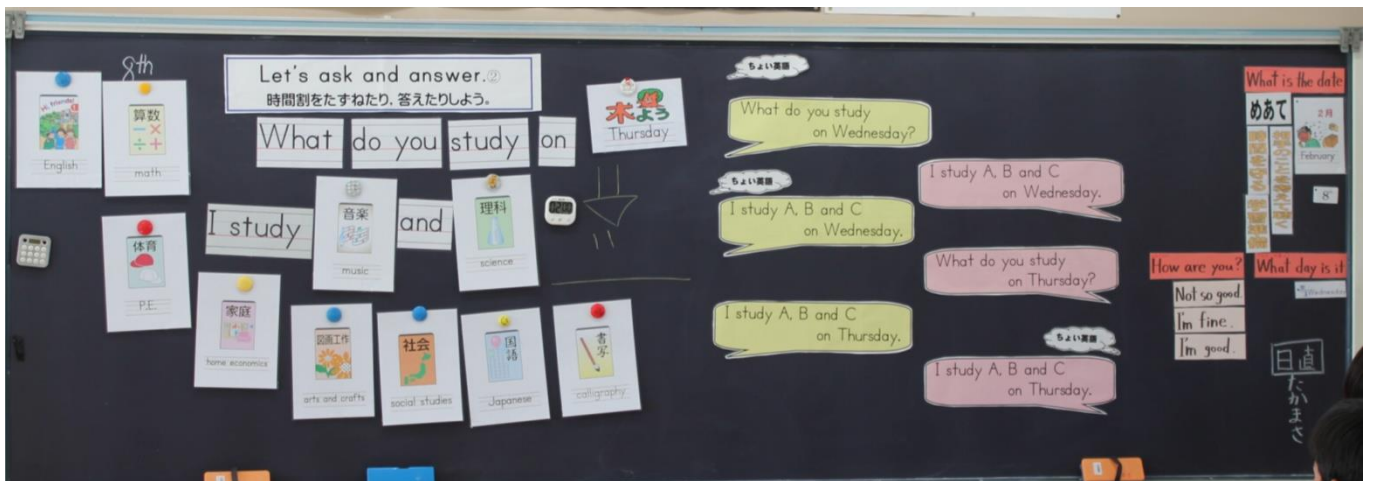
展開	児童の活動	指導者の活動 ○HRT ☆ALT □JTE ◎評価	備考
Warm up (3min.)	1. How are you タイム (友達と挨拶をする。)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○Hello! How are you? How is the weather? What day is it? What is the date?</p> </div> <p>○☆□ペアを見つけられない児童の補助や, 英語を使ってコミュニケーションをとるように見守る。 ○何人とやりとりできたか尋ねる。</p>	



<p>Let's start (5min.)</p>	<p>2. 何曜日に何の教科を学習するのかを伝え合う表現を聞いて、内容を想像する。</p>  <p>3. 学習目標をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>Let's ask and answer.②</p> </div>	<p>○☆ゆっくりしたテンポで、デモンストレーションする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT : Today is a lucky day. ALT : Why? HRT : Because today is a special schedule. I study P.E. today. (時間割を見せる) ALT : <u>What do you study today?</u> HRT : I study math, social studies, Japanese, P.E. and English. ALT : I see. <u>What do you study on Thursday?</u> HRT : I study English, Japanese, science, math, P.E. and home economics on Thursday. ALT : How about Friday? <u>What do you study on Friday?</u> HRT : I study English, English, Japanese, social studies, 総合 and 委員会 on Friday. ALT : That's nice!!</p> </div> <p>○何の場面なのか想像させる。</p>	<p>拡大時間割</p>
<p>Let's try① (15min.)</p>	<p>4. ALT の後に続いて、キーセンテンスの発音練習をする。</p> <p>What do you study on~? I study A(B and C) on ~.</p> <ul style="list-style-type: none"> • チャンツで • カードめくりゲームで 	<p>☆児童の様子を確認しながら、何度かリピート練習をする。</p> <p>○□うまく発音できていない児童を指導したり、励ましたりする。</p> <p>○and の使い方を思い出させる。</p>	<p>チャンツ音楽</p> <p>ピクチャーカード</p>
			

<p>Let's Try② (20min.)</p>	<p>5. キーセンテンスを使って、『仲間を探せゲーム』をする。</p> <p>①準備されたものを使って(全5パターン)</p> <div data-bbox="279 380 638 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Wednesday/Thursday の3校時までの時間割が書かれたものを持つ。同じ曜日に同じ教科の勉強で仲間とする。時間は問わない。両日とも仲間だったら、☆☆の欄に、どちらかだけ仲間なら☆の欄に、両方ちがったらいちばん下の枠に、相手の名前を書く。</p> </div>  <p>②自分で作って</p> <div data-bbox="279 1019 638 1198" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Wednesday/Thursday の3校時までの時間割を作る。時間割シートから教科を選んで作る。進め方は①と同じ。</p> </div> 	<p>○☆デモンストレーションを交えながら、ルールの説明をする。(3パターン見せる)</p> <p>○聞いていることが伝わる反応や、もう一度言ってほしいとき、ゆっくり言ってほしい時の表現(『ちょい英語』)を確認する。</p> <div data-bbox="670 380 1340 851" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(時間割を持って)</p> <p>○ What do you study on Wednesday? ☆ I study A, B and C on Wednesday. ○ (ちょい英語) I study A, B and C on Wednesday. ☆ (ちょい英語) What do you study on Thursday? ○ I study A, B and C on Thursday. ☆ (ちょい英語) I study A, B and C on Thursday. ※相手の名前を、あてはまる枠に書く。</p> </div> <p>○☆3時間までの時間割を作らせる。一度は、HRTかALT・JTEのところに尋ねに来るようにさせる。(評価)</p> <div data-bbox="670 1108 1476 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎評価【表現〔話す〕】</p> <p>何曜日に何の学習をするのか、尋ねたり答えたりすることができる。(行動観察)</p> <p>黒板を見ないでやりとりできる A ☆</p> <p>黒板を見ながらやりとりできる B ◎</p> <p>なにもしない C ☺</p> </div> <div data-bbox="670 1332 1093 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>授業後の評価</p> <p>A : 21人 B : 11人 C : 0人</p> </div> 	<p>時間割ワークシート</p> <p>時間割シート</p>
<p>Let's look back (2min.)</p>	<p>6. 振り返りを書く。</p> <p>7. あいさつをする。</p>	<p>○ふりかえりカードに今日のまとめを書かせる。</p>	<p>ふりかえりカード</p>

(8) 板書



(9) コメントカードより

date	day	speaking	listening	Reading	writing
8th	Monday	はっきり発音	先生の英語を	文字をみて理解	線に気をつけて
	Tuesday	伝わるように発音	なんとなく想像		正しく写す
December	Wednesday	・very good	・very good	・very good	・very good
January	Thursday	・nice	・nice	・nice	・nice
February	Friday	・try hard	・try hard	・try hard	・try hard
Today's goal		Let's ask and answer. ② 時間割をたずねたり、答えたりしよう。			
Comment		女の子の3人が3人いました。気の合う仲間がいたのがいいですね! ちや英語を使っている友達がいたのがいいですね。 すこしなと思いました。 ポイントはちよい英語を使うことです。			
Today's key sentence					
感想・ポイント文 など					

date	day	speaking	listening	Reading	writing
8th	Monday	はっきり発音	先生の英語を	文字をみて理解	線に気をつけて
	Tuesday	伝わるように発音	なんとなく想像		正しく写す
December	Wednesday	・very good	・very good	・very good	・very good
January	Thursday	・nice	・nice	・nice	・nice
February	Friday	・try hard	・try hard	・try hard	・try hard
Today's goal		Let's ask and answer. ② 時間割をたずねたり、答えたりしよう。			
Comment		日時間割をたずねたり、答えたりしようが前よりは、少しできるようになったので2人は、かたやまにしたいです。 きょうかを言ったあとにonとつけてよう日を言うことがむずかしかったです。			
Today's key sentence					
感想・ポイント文 など					

date	day	speaking	listening	Reading	writing
8th	Monday	はっきり発音	先生の英語を	文字をみて理解	線に気をつけて
	Tuesday	伝わるように発音	なんとなく想像		正しく写す
December	Wednesday	・very good	・very good	・very good	・very good
January	Thursday	・nice	・nice	・nice	・nice
February	Friday	・try hard	・try hard	・try hard	・try hard
Today's goal		Let's ask and answer. ② 時間割をたずねたり、答えたりしよう。			
Comment		たずねる文、答える文をすらすらと答えるようになった。 木曜日の言い方が少しむずかしかった。今回は「and」の 使い方が大切だと思った。 これはわかる時と同じだよ!			
Today's key sentence					
感想・ポイント文 など					

(10) 授業者の反省

4時間目の本時を迎えるにあたり、その前の3時間目までに、教科名の英語表現に慣れ、児童が自信を持ってアウトプットできる状態にした。具体的には、キーワードゲームやカードめくりゲームで繰り返し英語表現に慣れさせていった。さらに本時はカードめくりゲームに加えてチャンツも取り入れ、教科名の英語表現の復習を行った。習得に時間のかかる児童も、楽しい雰囲気の中で方法を変えながら繰り返し練習することで、次第に習得できるようになった。チャンツは、児童によっては抵抗を示す場合

もあるが、本クラスの場合は大半の児童が楽しみながら練習しており、結果的に明るい雰囲気にもなったことで表現の習得にもプラスに働いた。

本時は、単元のはじめに“What do you study on ~?”のフレーズを導入した。時間割について会話をしている場面設定で、HRT と ALT との会話を聞かせ、どんな会話が繰り返されているのか気づかせる方法をとった。そこで、拡大時間割を示しながらデモンストレーションを行った。教具を工夫し、会話の内容を推測しやすくすることで英語に対するハードルが下がり、難しくなりすぎると諦めてしまう児童も、「なんだろう？」と興味を持って話を聞くことができていた。

「仲間を探せゲーム」も、児童に多く発話させるために2種類行った。1回目は5パターンの時間割を用意し、同じ時間割の仲間を探させることで、必然的に“What do you study on ~?””I study ~ on ~.”を繰り返しアウトプットさせる状態をつくった。同じ時間割の仲間を見つけると、嬉しそうに”Me too!”と声をあげる場面もみられた。後半は、オリジナルの時間割をつくって仲間を探した。なかなか仲間が見つからないからこそ、いろんな友達に声をかけて何とか探したそうと繰り返し英語表現を用いて尋ねていた。評価の場面では、クラスの半数以上の21人が黒板にある例を見なくてもやりとりができていた。B評価の11人についても、文字で表記されているからつい見ってしまうという児童も見受けられた。文字で表すことで、それを頼りに学習を進められる利点と、文字から離れられないことによって即興的なやり取りまで到達しない場合との両面を感じた。より習得を高めていくためには、第5時にはやりとりの文字を見せずに活動させてみたい。

(11) 授業振り返り研究会より

①楽しい授業の工夫について

- ・「How are you タイム」の時に、授業を見に来ていた教師に、”What’s your name?”と質問をしていた児童がいた。『ちょい英語』を使ってみたかったのだと思うが、意欲的な姿勢だった。
- ・授業の前からスイッチが入っていた。既習英語を使ってみたいという気持ちがあるのは素晴らしい。
- ・チャンツを取り入れることで、楽しく学ぶことができるとともにアクセントのわかりやすく、有効だった。チャンツから次の段階へつなげるステップも模索できる。
- ・今回はチャンツは有効だった。リズムにのりながら楽しく練習することができた。
- ・ドリル的な学習から、伝えたいことを伝える内容へとレベルアップしていくのは、よい流れだった。
- ・「仲間を探せゲーム」では、『ちょい英語』や表情、身振り手振りを取り入れて主体的に聞く・話す活動をしていた。活動前に「同じ時間割がなかったらさみしいな」という児童のつぶやきがあった。楽しみながら授業に参加している証拠である。
- ・学習したフレーズを、必然性のあるコミュニケーションを通してアウトプットしていた。

②わかる授業の工夫

- ・板書が有効的だった。とくにゲームの説明では、吹き出しにしてセンテンスを提示しており、児童にとって親しみやすい工夫がされていた。
- ・デモンストレーションでの拡大時間割が効果的だった。視覚的に見せることの大切さを再認識することができた。また、2回デモンストレーションを示すことで理解が深まった。1回目よりも2回目のほうが伝わっていたことが、児童の様子から分かった。
- ・見通しと振り返りの視点から、学習目標の提示方法は改めて考えたい。時間的なことはあるが、コメントカードに自分で書くことで、より目標に対しての意識付けができる。
- ・どういう場面で使う英語なのか、場面設定がとても大切になってくる。本時のような場面設定のあるデモンストレーションはとても大切にしたい。デモンストレーションを児童が見て、聞いて、考えることが大切だと思った。
- ・方法を変えて、繰り返しアウトプットをしていた。そのため、文字の理解はしていなくても多くの児童がキーセンテンスや単語を覚えることができていた。また文字を示すことで、文字を頼りにしている児童も見受けられ、音声のみの指導よりも効果的だった。英語特区だからこそその指導がされていた。

(12) 5時間目の様子

5時間目は本単元の最後の時間である。チャンツやフラッシュカードを使って復習したあと、一週間の理想の時間割を作り、友達と伝えあった。理想の時間割を作るためには、将来自分がつきたい職業や頑張りたいことに関連させたもののように声をかけた。また、4時間目のゲームは曜日を限定したのに対し、5時間目は月曜日～金曜日の時間割を作ることとし、より活動の時間を増やした。なかなか同じ時間割の仲間を見つけるのは難しかったが、異性との交流で3ポイント加算する方法を取り入れることで、コミュニケーションの幅がさらに広がり、やりとりが活発になった。5時間目になると、教科の単語やキーセンテンス、”and”や”on”の使い方も十分に慣れ、自分の力でゲームができたと自信を持っていた児童も多かった。スモールステップで繰り返し指導したことで理解が深まり、自信が楽しさにつながり、抵抗なく学び姿につながった。

4 成果と課題

昨年度は、『意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～楽しい授業・わかる授業を通して～』のテーマのもと研究をすすめてきた。本研究会は小・中の先生方が所属しているという特長もある。そこで夏季学習会では講師を招聘し、「英語教育における小中連携のアイデア」についての学習会を行った。入門期において、つまずきの原因を少しでも減らすため、文字と音を結びつけるためのPhonicsの指導や、視覚に訴えるアイデアをたくさん紹介していただいた。小中連携の視点やアイデア、音声指導について考えが深まり、その後の授業実践にも変化があった。

研究授業に向けて、サブテーマである「楽しい授業・わかる授業」に重点を置き、『時間割を作ろう』の単元を通して、どのような方法で児童に言語材料に慣れさせていくか検討されてきた。効果的な導入やゲームについて、繰り返し議論がなされ学習が深まった。研究授業では、分かりやすい場面設定から言語材料を児童に気づかせ、チャンツやカードめぐりで慣れさせたり、ゲームを工夫することによってキーセンテンスを繰り返し使わせたりした。研究会では、授業の雰囲気づくりやインプットの点からチャンツの有効性が確認されたとともに、中学校でのチャンツの活用方法についても話が及んだ。また、文字を提示することで理解が深まっていた児童の様子から、音声指導と文字指導の関連を考える機会となった。「わかる授業」にするために、デモンstrーションの見せ方が重要であることや、必然性のある場面を設定し、何度か繰り返して見せることによって児童の理解が深まっていくという意見も出された。教師側が教材・教具を積極的に開発したり、ゲームやアクティビティを工夫したりすることで、児童・生徒の授業に対する抵抗感が下がり、「楽しい」と感じながら授業に参加することができる。部会で検討したゲームやチャンツを取り入れた研究授業を通して、学習者がより意欲的に英語学習にとりくむ姿が多く見られた。

また、小中連携という点からは、関連する”Hi, friends!”の教材を中学校の授業の導入で提示し、小学校の学習内容との関連を図る効果について検証された。中学校の先生方の専門的な知識を学ぶ機会にもなり、実りある研究となった。

本部会は、小中連携を意識した活動に継続的にとりくんでいる。今年度も8月に中学校の授業を参観し、2月には小学校の授業を参観する予定になっている。さらに、東山梨各校で行われている小学校英語科や外国語活動の情報交換や次期指導要領について学び合い、中学校との接続の点や活用方法を検討している。互いの授業を参観するだけでなく、実践を活用しあうこと、次期指導要領や新教材についての情報を交換しておくことで、小学校から中学校への移行がスムーズになるだろうと考えている。これからも小中連携を念頭に置き、接点を意図的に作ることで、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。